

Social Workers

2013

7月

Vol.9

社大OB・OGがつむぐ福祉の絆

ソーシャルワーカーズ



支え、支えられ 共に育つ施設づくり

高齢になっても、住み慣れた地域で人としての尊厳を失わずにその人らしい生活が送れるよう、家族や医療従事者と連携しながら支える施設があります。

interview



こ だき かず ゆき
小滝 一幸 さん
社会福祉法人 東京聖労院 常務理事
特別養護老人ホーム 清雅苑 施設長



たか はし みず ほ
高橋 瑞帆 さん
社会福祉法人 東京聖労院
港区立特別養護老人ホーム
サン・サン赤坂 ケアワーカー

その人らしく生活できるように支える

— 人生の先輩から学ぶことも多い —

社会福祉学部福祉援助学科
2012年3月卒業

たか はし みず ほ
高橋 瑞帆 さん

介護福祉士

社会福祉法人 東京聖学院
港区立特別養護老人ホーム
サン・サン赤坂 ケアワーカー

PROFILE

1989年 千葉県浦安市出身

2012年 社会福祉学部福祉援助学科卒

港区立特別養護老人ホームサン・サン赤坂入職

事業所の
パンフレット



利用者の身近で 生活を支える

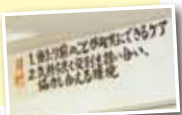
ケアワーカーとなって2年目の高橋瑞帆さんは、港区立特別養護老人ホーム「サン・サン赤坂」に勤めています。

「主な業務は、利用者の方の食事や着替え、排泄介助や居室の片づけなど生活全般を支えること、利用者個人に関する計画書など様々な書類作成などです。カンファレンスと呼ばれる、介護福祉士や医療従事者などが集まり適切な介護が提供されるよう会議にも出席するほか、利用者家族の方の対応も行います」

高橋さんの担当フロアには56人の利用者の方が東西に分かれ

高橋さんのある日

07:15 出勤
07:45 特早(特別早番)勤務開始 業務ノートを確認
この日はPHSを持ち緊急呼び出しに対応 朝食介助
09:00 申し送り・担当の確認 排泄介助・おむつ交換
10:00 居室を回り水分補給・体位交換など
エプロンの洗濯・乾燥
11:30 昼食
12:20 フロア番 利用者の方の見守り・声掛け
15:00 おやつ時間 お茶の配膳・見守り
16:30 業務終了
17:00 帰宅



て入居しており、およそ30人の職員が交代制で勤務にあたります。勤務時間は早番・特早(特別早番)・日勤・遅番・夜勤と変則的ですが、1カ月のうちに休日は10日あり、希望の休日も選べます。

「早番、遅番といったシフト制に加えて、ひと月交代でフロア担当とお風呂担当を受け持つ複雑な当番制ですが、2、3日の勤務後に休みが入るので、それほどきついとは思いませんよ」と高橋さんは笑顔で話してくれました。

その人のできることを 尊重する

当番によって業務内容が変わりますが、出勤してタイムカードを押して着替えると、最初にするのは業務日誌の確認です。フロアごとの日誌には利用者の方の気づいたことを職員が記入しており、内容を共有して細やかな対応を行います。

食事のときは食堂に利用者をお連れして、食事の見守りと必要な方には介助や声掛け、離床が難しい方はベッドで食事介助を行います。排泄介助はトイレの付き添いや介助、居室ベッドでのおむつ交換など、いずれもご本人ができることを尊重しています。

入居者は介護度4、5の方が多く、認知症の方もおられますが、離床できる方は花の水やりやおしぼりを巻いたり、季節の七夕飾りを作ったりします。高橋さんはその人のできることを見守り声掛けしたりします。

この人の生活を 私が支えるという覚悟

高橋さんが日本社会事業大学を目指したのは、障害のある家族がいて福祉が身近だったこと、福祉の資格取得に将来性を感じたからだそうです。学生時代はマンドリンサークルで施設へ依頼演奏に行ったり、実習先も特別養護老人ホーム清雅苑だったことから、卒業後はサン・サン赤坂を希望しました。

「毎日新しく学ぶことがばかりですが、初めて亡くなる方を看取ったときは、ことの重大さに心が揺れました。でも高齢の方の生活を支えるのが私の仕事なんだと改めて覚悟しました」家族よりも近いところで生活を支える仕事は、利用者の方への対応で戸惑うこともあります。が、職場の先輩方から適切なアドバイスをもらえるのがあります。経験豊かな職員や人生の先輩である利用者の方から学ぶことも多く、視野が広がる仕事だと感じています。

社会福祉学部社会事業学科
1986年3月卒業

その人の持っている力を生かしたい

—自分も家族も利用したい施設を目指して—

こ だき かず ゆき

小滝 一幸 さん

社会福祉士

社会福祉法人 東京聖労院 常務理事
特別養護老人ホーム 清雅苑 施設長

PROFILE

1963年 埼玉県所沢市出身

立川の特別養護老人ホーム生活指導員を経て社会福祉法人東京聖労院に入職

2000年に特別養護老人ホーム「清雅苑」施設長に就任

2006年より現職

80周年
記念誌

大切にしている本



**福祉は
特別なものではない**

社会福祉法人東京聖労院常務理事と「清雅苑」施設長、さらに清瀬市の福祉関係の委員も務めている小滝一幸さんは、日々あちこちの施設や事業所などを飛び回る忙しい毎日です。福祉の道にやりがいを感じている小滝さんですが、学生時代は熱い気持ちになれない時期もあったと言います。

「実は日本社会事業大学に入学した当初は志の高い学生ではなかったんですよ」と明かしてくれました。福祉の仕事があると知ったのは高校1年生の頃、テレビで見た「第1回24時間テレビ『愛は地球を救う』」という番組です。

組でした。チャリティという言葉がまだ珍しかった頃のことです。進路選択にあたって漠然と福祉を目指して入学したものの、周囲は高い志を持つ学生ばかりで、授業内容にも問題意識を持って、大学に居場所がないように感じて焦る一方だったといいます。そんな小滝さんを支えたのは、野球部の先輩方の福祉に対する考え方と、ある授業でした。「先輩方の話を聞き、『社会事業史』という講義に触れるうちに、福祉というものは決して特別なものではないんだ、困っている人がいれば何かできることをするのは当たり前ではないかと感じたんです」

特別養護老人ホームでは、生活指導員兼介護士として利用者の方の介助や自立支援、入退所の手続きなどの業務に情熱をかけていました。10年ほど高齢の方の支援に携わった頃、小滝さんはより利用者の方に寄り添った支援をしたいと考えようになりました。

**地域とともに
育つ施設づくり**

対して、一気に迷いがなくなりました。先輩方の福祉への姿勢はそれから常にも小滝さんの目標となり励みになり、さらに実習を通して福祉の道に進むことに確信を持ちました。3年生では高齢者福祉を学び、卒業後は特別養護老人ホームに就職することになりました。

○小滝 一幸さんのあゆみ

1986年	社会福祉学部社会事業学科（現 福祉計画科）卒業 立川の特別養護老人ホームに生活指導員として入職
1995年	社会福祉法人東京聖労院 高齢者施設開設準備委員として入職
1996年	社会福祉法人東京聖労院特別養護老人ホーム「清雅苑」が設置経営および老人短期入所事業の受託運営を開始 ソーシャルワーカーとして勤務
1997年	特別養護老人ホーム「清雅苑」副施設長就任
2000年	特別養護老人ホーム「清雅苑」施設長就任
2005年	社会福祉法人東京聖労院理事就任（「清雅苑」施設長と兼任）
2006年	社会福祉法人東京聖労院常務理事就任（「清雅苑」施設長と兼任） 現在に至る

社会活動

- 清瀬市介護認定審査会委員・副会長
- 清瀬市地域包括支援センター運営協議会副会長
- 清瀬市介護保険事業計画策定委員長・委員
- 清瀬市歯科医療連絡協議会委員
- 日本社会事業大学をかこむ地域福祉連絡会委員

そんなとき、高齢者福祉事業への取り組みを始める東京聖労院と縁あって出会いました。東京聖労院は大正時代から60年もの長きにわたり貧困や更生事業

「制度があるからそれに沿ったサービスをするのではなく、まずは困っている方のニーズありきでシステムは後からできるのが社会福祉のあり方ではないだろうか。それに、入所している方が住民として地域とかかわりを持てるような施設はできないものだろうかと考えました」



お茶処「みやび」

という社会福祉の課題に取り組んでいました。その基本理念は、「人はだれかに支えられ生かされている。それに気づき、天地・父母・国・衆生の4つの恩に感謝すること」という「四恩報謝の精神」であり、報いを求めず人の命に尽くす「聖労」というものでした。この聖労の精神に感銘を受けた小滝さんは開設準備委員に応募しました。

清雅苑にソーシャルワーカーとして勤務し始めたのは33歳の頃。開設時、周囲は畑ばかりだったのですが、18年目を迎えた住宅も増えて地域の中にすっかり溶け込んでいます。苑内には地域ボランティアの方々によって運営されている喫茶室（お茶処「みやび」）も開かれており、地域の方もデイサービスの利用者の方も自由に訪れています。

「地域の皆さんには、喫茶室

人としての尊厳を大切に

だけではなく利用者の方の話し相手や、ドライヤーで髪を乾かすなどといったボランティアにも参加していただいています。地域と共に育つ施設として、支援し支援される関係でありたいという心が生きていると思います」

清雅苑では、この「四恩報謝の精神」を基本にした目標を小さなカードにして全職員が持ち、全体朝礼時には唱和しています。

「常務理事や施設長という肩書から偉そうに聞こえてしまうかもしれませんが、全然違うんですよ。私はできるだけフロアや事業所に顔を出して、利用者の方や職員と気軽に声を掛け合えるように努めているんですよ」と、小滝さんは笑顔で語りますが、その仕事は多岐に渡ります。

まず社会福祉法人東京聖労院の法人業務としては、人事管理、採用、研修、昇進、人事考課、企画の立案や業務管理などが主な仕事です。

また施設長としての仕事は、特別養護老人ホーム清雅苑・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・居宅介護支援事業所・ヘルパーステーション等の統括です。小滝さんは日々各事

業所を回り稼働率などの運営状況を把握し、施設内を巡回して言葉かけをするほか、定期的に各部署の幹部職員とリーダー会を開きます。施設全体の経営状況を見ながら方針や計画を立て、最終判断を下します。

清雅苑には、入所されている方、デイサービスやショートステイをご利用の方や相談などで訪れる方に対応するため、社会福祉士や介護福祉士、看護師、機能訓練士や医師、ケアマネージャーなど、非常勤も含めて約80人が働いています。東京聖労院全体では約500人の職員を抱えています。法人では職員とのコミュニケーションを特に大切に考え、満足度調査やメンタル面にも配慮してストレスアンケートを取るなど、職員の心の状態にも気を配るようにしています。

「30年近く福祉の仕事が続けてきて思うのは、利用者の方と接することで自分の心が成長できる仕事だということ。お世話をしているのではなく、むしろ、私たちの方が支えられていると感じることも多いです」

小滝さんは「清雅苑の究極の目標は自分の家族に利用させたい、自分自身も利用したい施設であることです。そのためには、人としての尊厳を大切にすることを常に心に戒めています」と語ってくれました。

高齢者介護施設とは？

誰もがその人らしく暮らせるために

日常生活がうまく送れない高齢者のための介護施設についてご紹介します。介護施設には、介護保険が使える介護保険施設と、介護保険が使えない施設があります。利用者（被保険者）が市町村の窓口で申請すると調査員が訪問し、医師の意見書と合わせて介護認定（要支援1～2・要介護1～5）が行われ、介護度により入所が決まります。

介護保険が使える介護施設（入所するには各施設によって介護度などの基準があります）

在宅介護型施設

- 訪問看護ステーション
 - 通所介護（デイサービスセンター）
 - 通所リハビリテーション（デイケアセンター）
 - 短期入所療養介護（ショートケア）
 - 短期入所生活介護（ショートステイ）
 - 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
 - 小規模多機能ホーム
- （地域にある施設に通い・訪問・泊まりを組み合わせで利用）

入所介護型施設

- 介護老人保健施設（老人保健施設）
（リハビリ目的で短期に入所する）
- 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
（自宅介護が難しい高齢者対象で重度の方から入所）

介護保険が使えない施設

市町村・社会福祉法人運営

- 養護老人ホーム（行政指導により緊急措置として入所）
- 軽費老人ホーム A 型（食事付き）
- 軽費老人ホーム B 型（自炊）
- 軽費老人ホーム C 型（ケアハウス）

民間運営

- 介護付き有料老人ホーム
- 住宅型有料老人ホーム（個人で介護サービス契約）
- 健康型有料老人ホーム（介護が必要になれば退所）
- サービス付き高齢者向け住宅（単身者や夫婦世帯に介護・医療と連携）

ソーシャルワーカーは、こういった施設で専門知識を生かして、誰もがその人らしく暮らせるよう支援しています。